

平成28年度 第4回 調布市地域福祉推進会議 議事要旨

【日 時】平成28年12月21日（水）18：30～20：30

【場 所】調布市文化会館たづくり 西館2階 予防接種室

【出席者】

出席委員：21人

事務局：福祉健康部：福祉総務課，生活福祉課，高齢福祉担当，介護保険担当，障害福祉課，
子ども発達センター，健康推進課

子ども生活部：子ども政策課

社会福祉協議会：地域福祉コーディネーター

コンサルタント事業者

傍聴：5人

【資 料】（当日配布資料）

- ・調布市民福祉ニーズ調査 調布市民の福祉意識と地域生活に関する調査
- ・調布市民福祉ニーズ調査 高齢者の生きがいと地域生活に関する調査（資料1－2）
- ・調布市民福祉ニーズ調査 障害のある方の地域生活に関する調査（身体，知的，18歳未満の方）（資料1－3）
- ・調布市民福祉ニーズ調査 アンケート調査 速報版（資料2）
- ・平成28年度地域福祉コーディネーター事業の概要等
- ・調布市民福祉ニーズ調査 住民懇談会の結果（中間報告）
- ・ミニアンケート実施結果

【議 事】

1 地域活動報告（地域福祉コーディネーターから）

会 長：皆さん，こんばんは。それでは，議事に従って進めさせていただきます。最初にまず，地域活動報告を地域福祉コーディネーターから取組について報告をいただきます。

事務局：本日お配りしている資料でタイトルが「平成28年度地域福祉コーディネーター事業の概要等」というA4で横に留めている資料がございます。本日は2人の地域福祉コーディネーターが参加していただいておりますので，このあとふた方から現在の28年度を取組に対して中間的な報告をいただきたいと思っております。私から冒頭に，昨年度3月ごろにみなさんから一度事業について評価をいただいたかと思っております。今年度につきましても，調布市では国の補助金を受けて地域福祉コーディネーター事業を行っており，国庫補助要綱の中で学識経験者や現場の有識者が参加する，第三者委員により評価・検証することになっております。今年度も第1回の会議でお示しをお願いしたように，今年度末に評価をいただきたいと思っております。しばらく夏から開催が空いておりましたが，12月まで，平成28年度の各事業の取組となりますので，今回2人のコーディネーターから今年度の4月から12月までの取組を報告したいと思います。それでは地域福祉コーディネーターから，よろしくお願い致します。

コーディネーター：地域福祉コーディネーターの取組について，11月現在の進捗状況についてお話しさせていただきます。その後，西部地域担当より担当地区の取組についてお話を致します。「平成28年度地域福祉コーディネーター事業の概要等」を皆様お持ち下さい。最初に1番の地域福祉コーディネーターの配置についてです。2ページの（4）をご覧ください。真ん中あたりですが，量的な目標として調

布市地域福祉計画の調布市の基本計画に基づいて6,800件の活動件数と設定しておりますが、右側の3ページ、表の一番右下をご覧くださいと、11月末現在で8,397件になります。すでに上回っている状況でございます。昨年度の同月11月末現在と比べますと、各地域とも微増となっております、合計で約250件増加している状況でございます。こちらはご覧ください。質的な成果につきまして、今回特に具体的な事例はあげておりませんが、日頃より生活困窮者の自立に関し、生活困窮者自立支援事業を行っている調布ライフサポートと連携を密にしております。具体的には、地域福祉コーディネーターが外に出て、その中で生活に課題を抱えている方をライフサポートにつなげ、就職につながったケースもございます。また、調布ライフサポートに相談した方に関して、ライフサポートの方から「複合的な課題を抱えている」とか、「地域の中でつながり作りが必要だ」ということで地域福祉コーディネーターにつながって支援に入ったケースもございます。引き続きこういった地域の生活課題の解決に向けて取り組んでいきたいと思っております。

次に4ページの2番です。これは東部、西部地域で12回の目標という形で進めておりますが、成果をご覧くださいますと、東部地域9回、西部地域4回として目標を達成しております。こちらにつきましては、社会福祉協議会が呼びかけて策定している「調布市地域福祉活動計画」がありますが、そちらも推進委員会という形で、東部地域、西部地域で、5回、4回の会議を実施いたしました。また東部地域につきましては、一部地域において、自治会さんや、民生委員さんをはじめ、さまざまな方に集まっていただき、「その地域の課題に関して検討しましょう」という、地域課題検討委員会を4回と9回の計13回開催しております。引き続き地域のみなさんと話し合いを進める中で地域の課題を共有し、課題解決を図る仕組みの創出に向けて頑張っていきたいと思っております。

続いて6ページの3番です。「子どもの居場所づくりの支援」です。こちらは2つあり、一つは子どもの居場所づくり、一つは子ども食堂でございます。子どもの居場所づくりにつきましては、杉森小、染地小地域につきまして「Omiso」という活動がすでに始まっております。7ページの(5)の成果アのところにあります。毎月第1土曜日に取組を進めております。また、国領小地域におきましては「宿題やるとこ遊ぶとこ IN 国領」という取組を行っております。杉森小に関しましては、ご覧の通り6回の取組を行いました。最初は2名と少なかったですが、直近の11月2日に関しては38人の方にいらしていただいて非常に取組が広がっている印象を受けております。また、国領小学校に関しましては、地区協議会でございます。こくりょう・みんなの広場が主催という形で野川の水辺の観察会を開催し、37人の方がいらしてくださいました。双方とも染地コーナーのボランティアコーディネーターと連携しながら支援しており、順調に進んでおりますので今後とも同様の形で進めていきたいと思っております。子ども食堂につきましては、後ほど西部地域の担当からご報告させていただきます。

続いて9ページの「地域住民の主体となった朝一の開催」です。こちらに関しては、1回の開催を目標としておりましたが、今年度2回の開催を実施することができました。それぞれ夏野菜、秋野菜バージョンということで実施をいたしまして、両方とも地区協議会であります。北ノ台まちづくりネットワークが主催で行っております。今後とも新たな視点を入れて継続していけるように関わっていきたいと考えております。

続いて11ページの「サロンの新設・新規開設」です。こちら目標が4箇所ですが、すでに5箇所のひだまりサロンが開設されております。北部地域は0箇所となっておりますが、ひだまりサロンではなく、北ノ台まちづくりネットワーク主催のサロン活動ということで、すでに立ち上がっているものがございますので、それも合わせてご紹介をさせていただきます。12ページの質的成果をご覧くださいますと、高齢者施設を活用したサロンもできております。なかなか施設に入居している方が周りの住民と交流する機会が乏しかったですが、このサロンを開催することで地域の方との交流をはかることができ

ましたし、施設側も地域に開かれた施設として地域のみなさんに知っていただくということで双方にメリットがある活動になっております。

続けて、13 ページ 6 番の「生活困窮者の生活支援システムづくり」です。こちらに関しましては、調布ライフサポートに相談に来る方の中には、「今日食べるものがない」という切迫した状況の方もいらっしゃいます。そういう状況の中で食料品等の支援に関しては非常にニーズがあると考えております。まだ目標の商店街の聞き取り調査が未実施となっておりますので、今年度中の実施に向けて準備を進めてまいりたいと思いますが、地域の方からフードバンクに関心があるため立ち上げをしたいというご相談も受けておまして、勉強会を立ち上げている状況でございます。これについては後ほどお話があるかと思えます。また、今回の報告では 11 月末現在ということで記載はしていませんが、12 月 1 日の市役所主催のフードドライブという取組がありました。ご自宅に眠っている食材などを持ち寄っていただき、それを市内の福祉施設などにお配りするような取組ですが、こちらにも協力しております。今後、地域の方の「フードバンクを立ち上げたい」という声や、商店街の聞き取り、また、市の動きなども含め、新たな仕組みづくりが図れればと考えております。

続いて 14 ページの 7 番です。こちらも未実施となっております。現在、調布ライフサポートとどのような形で進めていくかを検討している段階ですので、今年度中にはご報告ができると思います。こちらについては改めてお話をしたいと思います。最後、15 ページの 8 番、啓発活動等に関してです。数値目標については、定例会 60 回、啓発 700 回となっております。16 ページに現在の状況があります。今年度より、調布ライフサポートととの定期的な定例会を開催することになりました。回数はご覧の通りとなっております。啓発回数については目標の半分となっております。こちらに関しては、昨年度新たに配置された東部地域、西部地域での PR 活動が非常に多かったです。1 年を通し件数がやや減っている状況ですので、ご覧の件数となっております。しかし、まだ地域福祉コーディネーターの周知は足りていない状況ですので、今後とも PR 活動に力を入れていきたいと考えております。非常に駆け足でございますが、年度末に 1 年間の報告をさせていただければと思います。私からは以上で、続いて西部地域担当からご報告をさせていただきます。

コーディネーター：私からは西部地区でのご報告をさせていただきます。昨年からは西部地区の担当となり、今年で 2 年目になりました。昨年に比べ個別支援、地域支援どちらの相談も多くなった感じがいたします。地域住民からは「介護サービスを利用したい」、「サロンに参加したい」、「自分の地域にきになる人がいる」、「書類の手続きがわからない」、「社協の配食サービスを利用したい」という相談や、「地域で新しい取組をしたい」という地域活動に関する相談もありました。相談を受けた時は、地域包括支援センターや介護事業所、訪問看護ステーション、民生委員、自治会、病院の医療ソーシャルワーカーと連携して支援をしていきましたが、やはり地域包括支援センターとの連携を取ることが一番多かったです。また、8050 問題という言葉がございますが、介護事業所が「介護サービスで会ったときに、引きこもりの 40 代、50 代の子どもがいると分かった」という多問題家族の相談もありました。今までは発見してもつなげる先がございませんでしたが、CSW につながったということで、医療機関や就労支援につなげるケースもございました。

また、年間を通して、自治会訪問を行いました。10 地域では自治会が約 70 位あります。自治会長：さんに、CSW の役割を話すと、ご近所のことを把握している方が一軒一軒状況を教えてくれたり、気になる方へのところには一緒に挨拶に行ってくれたりしました。公的なサービスに繋げること以外にも、孤立を防ぐために地域住民との交流、生きがいとなる趣味活動や地域活動への参加が大切となっていきます。特に高齢者の方からは、自分から情報を得るという力が弱くなってきている方が多いです。その方に合ったサービスや、サロンや地域活動などには積極的に情報発信をしてきました。2 ヶ月に 1 度地

域包括支援センターとの定例会でお互いの活動報告、情報交換を行いました。私が関わっている地域支援活動を知っていただくことで、包括や介護事業所などがその方に合ったサービスにつなげることができればと思っております。

いくつか事例を通して報告していきたいと思います。まずは個別支援です。訪問看護ステーションと連携して動いた事例です。あまり細かいお話ができませんが、お一人暮らしの方で医療ケアが必要なため、訪問看護サービスを受けている方がいらっしゃいました。医療ケアはしていますが、地域との関わりがない状態でした。今後生活をしていく上で、訪問看護ステーションができるのは医療的なケアです。そのため、「その方に何かあった時に、地域の方とともに支えることができるか、それがとても不安だ」という相談がありました。まずは訪問看護ステーションの方と民生委員さんと3人でご自宅を訪問して、その方の生活状況、健康状態を聞きました。緊急的に支援が必要なわけではないですが、病気のことがあり、まずは「民生委員やアパートの大家さんと継続的に見守りをしていくこと」、また、「何かあるときは私たちのような相談先がありますよ」というお話をしました。今まででしたら、訪問看護ステーションという一つの専門機関だけで、その方を支援していましたが、「民生委員さんや大家さんなどと一緒に地域で見守る人が増えた」と訪問看護ステーションの方も安心されていました。その方が地域住民の一人として、安心して生活していくには周りの方の支援が必要となってきます。そういう意味では他職種、地域住民との連携という横のつながりが必要だったケースだったと思っています。

次に地域支援の取組を三つ紹介いたします。富士見地域で子どもの支援や母子世帯を支援している施設や団体が横のネットワークを作った事例をご紹介します。富士見地域では児童擁護施設や母子支援施設、中高生の居場所であるCAPS、それから居場所であるキートス、子ども食堂かくしょうじと、子どもや母子世帯を支援する施設や団体が多いのが特徴です。民生委員さんより、「同じ施設でそれぞれの団体が支援しているが、それぞれが横でつながっていない。それぞれが同じような活動をしているのだからお互いの情報を共有して地域で何ができるか考える機会が欲しいので、各団体をつないで欲しい。」という相談がありました。そこで、「富士見子ども連絡会」という名前を作り、各団体に声かけをして、9月に第1回、11月に第2回目を開催いたしました。参加メンバーは先ほどの団体と、健全育成、小学校のユーフォーに勤務している方にも参加していただきました。1回目はお互いの活動状況の共有、それぞれの子どものたちの状況を話し合いました。話をしていく中で、地域で気になっている子どもが複数の団体のところに通っていることがわかり、今回の会を設けたことで、その子の様子を話しお互いに共有することができました。2回目は子どもを取り巻く環境や、学校での様子、課題などを聞いて、この会でできることは何かということ話し合いました。まだ答えは出ていませんが、今後は2ヶ月に1回、情報交換会をおこなう予定です。今回、2回開催しただけでも、それぞれの施設や団体が考えていること、課題と感じていることとして「子どもは地域で支えていかなければならないため、おせっかいおばさん、おじさんが必要だ」という共通の認識ができましたので、話し合いの場が持てたことが有意義だったと思います。

二つ目は、フードバンクの立ち上げの支援です。地域住民の方から「フードバンクを立ち上げたい」という相談がありました。その方は、相談に来る前に他地域のフードバンクに見学に行くなど、自分でフードバンクの勉強をされていましたが、やはり一人で立ち上げることに不安になってきて、相談に来られました。調布でもさまざまな理由で処分されてしまう食品を必要としている施設や人に届けるフードバンクができればと常々思っていましたので、現在、立ち上げに向けて準備会に参加しているところです。先月その方と一緒に考えてくれる協力者が集まり、フードバンクについて勉強を含めて話し合いを行いました。開設に向けての場所の問題、資金の調達、継続していく方法など一つずつクリアしていかなければいけないところがございますので、今後も開設に向けて話し合いを続けていく予

定です。フードバンクができることで市が主催しましたフードドライブの取組、生活困窮者への支援や子ども食堂など必要としている施設や団体と連携ができればと思っております。

三つ目は子ども食堂かくしゅうじについてです。4月から覚證寺の住職が発起人となり始まった子ども食堂ですが、毎月第1、第3木曜日に開催、12月までで14回開催いたしました。最初は20名くらいの参加でしたが、今は保護者を含めて40人前後の参加があります。メンバーは地域の子どものたこのことをよく知る民生委員、健全育成、保護司、PTAの保護者、CAPSの職員、地域住民ボランティア、大学生ボランティアなどです。自主的に宿題をする子や学年を超えて子ども同士が交流する居場所的な役割も担ってきています。また、食材や活動資金の寄付など間接的な形で支援をしてくださる方も増えています。親だけでなく、地域住民がみんなで子どもを見守るという意識が高まり、それが地域に広まってきていると感じます。また、スタッフと子どもたちの間にも信頼関係ができ始め、最近では、大学生のボランティアさんに、学校での悩みを打ち明ける子もいました。最初は遠慮していた子どもたちが最近では、その子の素が出てきていることをスタッフも感じております。普段の子どもたちの様子を知っているスタッフの目から見ると「安心して自分を出せる場所になってきているのでは」というお話もありました。簡単ではありますが、西部地区からは以上です。

コーディネーター：一つ、CSWという言葉を行いました、コミュニティ・ソーシャルワーカーの略で、地域福祉コーディネーターと同じ意味です。長いので、略してCSWという言葉がありますので、地域福祉コーディネーターのことを話していることで、よろしく願いいたします。

委員：何点か質問です。まず、3ページの個別支援のところの当事者の支援というところがあり、私も大事だと思っています。特にこれから増えていく独居の認知症の方たちがどれだけ家で過ごせるかということについて、これが非常に大きな役割を果たしてることが期待されますが、この具体的な内容が分かりましたら教えていただきたいです。それから、13ページの生活困窮者に対する支援についてですが、物的なことではなく、金銭面での困窮者対策というのは、地域福祉コーディネーターの役割が何かあるのかということです。そして、生活支援コーディネーターが今、調布市でどういう風に、どこまでいっているのかということと、その棲み分け、役割分担についてお伺いしたいです。

コーディネーター：まず、1点目の個別支援の当事者への支援ですが、さまざまな方がいらっしゃいますので、一概に言えないですが、例えば先ほどおっしゃったような「独居高齢者の方で地域につながりがほしい」というご相談や、近隣トラブルなどが元になって、その方になにかしらの障害があったりして、その方を医療につなげたりとか、ご相談があったりします。先ほど聞かれているような生活困窮者の方がいらっしゃり、「生活が苦しいということでライフサポートにつなげた」という事例がございますので、さまざまな地域の中で課題をなかなか出せないという方がいらっしゃるということで地域福祉コーディネーターが関わることで支援をしているような状況です。

委員：その詳細として、どういったものが何件あったとか数字を出していただけるととてもありがたいと思います。

委員：報告書などではこういう相談が何件あったなど出しておりますので、また改めてこういう場でご報告ができたと思います。また、2点目の金銭面での支援ですが、地域福祉コーディネーターが具体的に金銭的な支援をするわけではなく、様々な各種制度につなげるような役割を担っております。例えば、社会福祉協議会でおこなっている生活福祉資金といった貸付制度や、そこには難しい方は生活保護につなげるなどのご支援をしている状況です。3点目はどうでしょうか。

委員：生活支援コーディネーターが今どうなっているかということと、役割分担というところでお話をさせていただきます。私どもの生活支援事業は、2年目の取組となっております。協議体という会議をする場ですが、全5回を予定しており、今度は1月末を予定しております。まず、生活支援コーディネ

ターの活動ですが、地域福祉コーディネーターの個別支援、地域支援という分け方でいうと、主に私たちの第一層の協議体のところで、地域支援、市全体としてのまちづくりの仕組みをどうしていくかということをお話し合っているところです。内容としまして、市民の意識醸成をまずしていこうということで講演会を1回開催させていただいております。学習会は、年に2回開催いたしまして、内容としては介護予防の部分で一人一人ができる簡単な健康体操をテーマに1回学習会を開催させていただいており、あとは高齢者の現状を知っていただく、理解していただくということで講義形式を含めたものと市民で支え合いの体験ができるゲームのようなワークをさせていただいております。2回目は、「物と心の整理」ということで、老い支度のようなことをテーマに講師を呼んで学習会をしている状況です。生活支援コーディネーターの個別の具体的な活動内容ですが、表の内容は地域福祉コーディネーターと似通ってしまうかもしれませんが、地域に一箇所コミュニティカフェの立ち上げ支援をおこなっております。ゆうあいの協力隊員の方がご自宅を開放してコミュニティカフェを作っているということでその立ち上げ支援をしながら実際に第3回、4回ぐらい開催されて、具体的に開催していく中でも課題がありますので、サポートをしている状況です。簡単ですがご報告をさせていただきます。

委員：やはりかなり被っていますね。

委員：そうです。重なっている部分はあるかと思います。

委員：感想というか意見という形で申し上げたいと思っております。先日の住民懇談会の「調布市の福祉の現状」という配布資料のデータですが、その中で高齢者世帯の欄で特に一人ぐらいの方が、平成12年は5,119件であったのが、平成27年には11,133件ということで15年経って倍増しているというデータがあって驚きました。今、地域福祉コーディネーターさんが取り組んでいる課題の一つにひだまりサロンの設置の推進、後押しをしているということで、平成23年には45箇所のひだまりサロンがあったものが、平成27年には91箇所に増えている、倍増しているデータがございます。このひとり暮らしの高齢者の社会的孤立をどう防いだら良いのかということをお考えするとき、私が申し上げたいのは、自治会の加入率が減少する、自治会の数が減っている、老人クラブの数が減っている、老人クラブの加入者が減っているという流れの中で、ひだまりサロンの社会的な効果が非常に大きいものがあると思っております。特に社協さんには、ひだまりサロンの設置数だけではなく、一体どれくらいの人を巻き込んだ数字なのか、もっとPR、アピールしていただくと、孤立を防ぐ上での対策の役割として脚光を浴び、さらにこの流れを増進、推進していくのではないかとということで、ぜひ、ひだまりサロンのことをもう少し市内にアピールしていただいてこれから他の人たちもそういう気分になるようなものを出していただければと思います。

会長：今の報告は、いつからいつまでとさっきおっしゃいましたか。

委員：4月から11月末です。

会長：今、4人いらっしゃいますよね。4人のコーディネーターの活動をまとめたものと考えて良いですか。

コーディネーター：先ほど事務局から説明がありましたように、国からの補助金をいただくにあたって、こういう事業内容でしていくというものをしておりますので、それに沿った形での報告になります。4箇所ものは、網羅していると思います。

会長：今お話がありましたが、例えば数があるものの中身をわかるように、どんな人が参加しているのか、どんな物語があるのかなど、そういうのもできたら知りたいというお話もありました。今度まとめるとき、色々データをお持ちだと思いますので、その辺のところを少し意識して実際の活動ぶりがよくわかるものを入れながら、データとしてもあげてまとめていただければと思います。

コーディネーター：昨年度の報告では事例なども入れておりましたので、そういう形でも考えていきたい

ですし、この報告とは別に一年間の取組をまとめた報告書を黄色い冊子で昨年度出しましたが、そこには様々な事例などを含めて、具体的な相談内容を入れ込んだものを作っておりますので、そういった形で皆さんにご理解いただけるような形を取りたいと思います。

会長：他に何かご質問はありますか。

委員：子ども食堂についてですが、前回、多摩川地区に作るというお話が民生児童委員の中村からありまして、それに対しての進捗状況話せる範囲で教えていただきたいと思います。

コーディネーター：私の方で、「多摩川地区の方で作りたい」という相談を受け、今、支援をしているところでございます。その方は、小学生のお母様ですが、「課題があるお子さんを対象にして地域で子ども食堂が開設できれば」ということで相談がありました。その方は地域の住民の方なので、まず場所の問題から始まり、資金面はどうするかなどを話し合いました。子ども食堂などを覚證寺に見学に来られて、「これだったら自分でもできるかもしれない」という思いを持たれてお話をされましたが、その際に中村民生委員さんにご相談をしまして、多摩川地区なので、多摩川小学校と富士見台小学校に、そのような課題のある世帯はあるだろうかを調べていただきました。それぞれの学校により母子世帯数や課題のある子どもたちには差がありました。多摩川の駅周辺で開設をしたいという思いがありまして、その方がカフェが大好きで、「このレストランをお休みの日やレストランが終わった後にお借りできれば」ということで施設長と一緒にご相談に行きました。色々話をしていく中で、「平日の夜は入れ替わりのところで難しいところがあり、月曜日のお休みの時であれば利用できます」というお話をいただいておりますので、まだ具体的な話は来年度以降ですが、場所をお借りして食器はどうするか、電気代はどうするかなど細かいお話は今後進めていくことになっております。

会長：こういうことをやりたいという趣旨の方が出てきて、それを相談に乗って具体的に進めることができる支援がきめ細かくできていることは非常に大事なことです。先ほどのフードバンクもそうでしたが、フードバンクという名前で本当にやるかどうか、全国的なネットワークみたいなことでやるとなかなか動くのも難しいところもあるので、調布版のやり方を独自に作り出すといいですね。市民の方が月に1回、賞味期限が1ヶ月とか2ヶ月あるものを出しあうというのは結構広がっていくものです。ですから、なるべくたくさんの人を巻き込むような感じで構図を考えていただければ良いと思います。いずれにしても色々な新しい面が出てきていて、個別支援だけでなく、地域の中でこういう人たちを支えたいという人たちの動きを支援するようになってきているという点では、これまであまりなかった非常に良い取組になってきているのではないかと思います。

2 調布市民福祉ニーズ調査・結果速報について

事務局：お手元に資料1と資料2をご用意ください。主に資料2を使って、ご説明させていただきますが、資料1は、アンケート調査の調査票に、調査結果を記載させていただいておりますので、合わせてご覧いただければと思います。

市民福祉ニーズ調査の速報として、調査の概要をまとめたものです。調査については、郵送により実施。督促令状を1回送付。調査期間は、平成28年の10月11日から10月27日までと設定。

回収率は、前回調査に比べ、おおむね5ポイントずつ下がっております。市民調査の方は、前は41.8%、今回は36.6%です。合計の平均値の方も、前は59.4%で、今回は54.7%と下がっております。

続いて、7ページをご覧ください。

はじめに、市民の18歳から64歳の方の、「調布市民の福祉意識と生活に関する調査」の結果です。7ページ一番下の所、「手助けを頼める親族、知人の有無」については、頼める人が「いる」割合が65.4%、頼める人が「いない」割合が33.8%になっています。前は、頼める人がいる割合が57.8%で、頼め

る人がいる方が増えたのが良いと思います。こういった前回との比較については、次回以降でまた検証します。今日はこの速報版の数値のみご紹介させていただきます。ご了承ください。

続きまして、8ページの「(2) 近所付き合いとお住まいの地域の様子」です。「あいさつをする程度の付き合い」が50.5%で、最も多い数字です。一方では「近所付き合いをしていない」方は、19.2%

③で、自治会の有無、地域に自治会が実際にあるかどうかを質問させていただきました。「ある」と答えていただいた方が5割、このうち、自治会があるのに加入しているかどうかの質問では、「加入している」方は74.2%でした。

「日頃の悩みと相談」では、「地域の暮らしの中での不安や課題」の質問では、やはり災害時のことが最も多い回答をいただいております。

次に、「経済的な理由で困った経験の有無」という質問を今回させていただきます。ただ、困ったということが少なく、すべての項目について、9割以上の方が「なかった」と答えています。また、「困ったときの身近な相談相手や機関」については、「同居の家族」を最も頼りにされているようで、その回答が7割。また、「手助けの希望」について質問の中で、「手助けをしてほしくない」という回答が気になりました。「食事や掃除、洗濯のお手伝い」や、「ちょっとした買い物やゴミ出し」は、6割近くの方が「手助けをしてほしい」と思っていないという結果が出ています。次に10ページの「手助けの今後の意向」です。したいと思うことは、「具合が悪くないときに病院等に連絡する」や、「災害時の避難支援の手助けの準備」が、5割近くの方から回答がありました。

続いて「地域福祉活動の取組について」です。地域活動、ボランティア活動への興味関心の有無について質問させていただきました。興味のある地域活動、ボランティア活動は、「防災訓練」や、「災害時に救援支援をする活動」に6割近くの方が回答。また、取組状況についてお聞きしたところ、取り組んでいる活動については、「子育て世代、青少年を支援する活動」、「子ども会やPTAの活動」でした。また、「今後の取組意向」については、「機会があれば取り組んでも良い」という回答をいただいた方が4割、「あまり取り組みたくない」という方は2割でした。では、なぜ取り組みたくないかという質問では、3割弱の方が、「時間がないから」と回答。「参加しやすい条件」は、「時間や期間にあまり縛られない」という回答が6割近くありました。

続いて11ページです。「住民参加の地域づくり」では、地域のつながりを感じる程度についての質問です。「とても感じる」、「少し感じる」を合わせて《感じる》とお答えいただいた方は4割強でした。また、「あまり感じない」、「感じない」という方が5割を超えております。地域のつながりの必要性についておたずねしたところ、「どちらかという必要だと思う」という方が7割、「とても必要だと思う」方が2割で、9割近くの方が《必要だと思う》という回答をいただいております。また、その下の、「地域住民の協力関係を築くために必要なこと」では、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりを持つように心がけること」に4割の方回答。

7番、「地域社会に対する考え方」ということで、「ソーシャルインクルージョンに関する意識」について質問です。障害のある方々を社会から隔離、排除するのではなく、社会の中で共に助け合って、支え合って生きていくという考え方で、9割近くの方が「そう思う」とお答えいただいております。13ページ、③です。「共生社会の実現状況の実感」ということで、そういった考え方が《浸透している》と感じられた方は16.4%、《浸透していない》と答えた方が4割を超えています。

次に、「福祉のまちづくりについて」です。バリアフリーの状況は、「整備されている」と皆さんが感じられているのは、「公共施設や病院などのスロープやエレベーター、エスカレーターなど」、また、「車いすの方や乳幼児を連れた方などが使いやすいトイレ」については7割近い回答です。また、「あまり整備されていない」という意識を持たれている状況については、「補助犬と同伴で入室が配慮されたお

店やレストランなど」、あるいは「手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設」については7割近くが、まだ《整備されていない》という意識がございます。次に、「近所やまちで手助けをした経験」については、かなりの方が、そういった経験をお持ちでした。

9番め、「介護や認知症への考え方」です。「認知症のイメージ」についておたずねしました。「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」と4割強の方が回答。「求める認知症施策」のうち、「家族の身体的、精神的負担を減らす取組」は、7割強の方が回答。また、「家族の仕事と介護の両立支援を含めた経済的負担を減らす取組」も6割近い方が回答しています。その下、「介護者に必要な支援」については、「介護者が気軽に休息が取れる機会作り」、こういったものを望んでいらっしゃる方が6割です。

続いて10番、「障害のある人の地域生活」では、「障害者差別解消法の認知度」についておたずねしました。残念ながら、「知らない」と回答された方が9割弱、ヘルプカードの認知状況では、「知らない」と回答されている方が8割です。11番、「調布市の保健福祉策」についておたずねしました。「今後力を入れるべき保健福祉策」について、②番で回答いただきました。「高齢者の介護や生活支援施策」は5割の方が、「少子化対策や子育て支援策」、こちらも5割に近い方が望まれていらっしゃいます。15ページの上です。保健福祉サービスの充実のために必要だと思う取組についておたずねしました。「在宅サービス」、「ホームヘルプサービスやデイサービスなどの質と量の確保」は5割を超える方が望んでいらっしゃいました。市民調査については以上となります。

続いて16ページ、「高齢者の生きがいと地域生活に関する調査」です。

「家族構成」については、夫婦のみで配偶者の方も65歳以上の方が4割で、「ひとり暮らし」の方は2割です。17ページです。「介護が必要になったときに生活したい場所」については、「自宅で在宅サービス（通いや訪問を含む）を受けながら生活したい」という方が33.9%。

2番、「日頃の近所付き合いの状況」では、「立ち話をする程度の付き合いをしている」と答えた方が4割、「あいさつをする程度の付き合いをしている」という方が33%です。市民調査では「あいさつをする程度」が一番上になっていますが、高齢者調査では、もう少し進んだ、立ち話をする関係があるようです。

3番です。「日頃の悩みと相談」です。はじめに、「地域でのお暮らしの中での不安や課題」について質問しました。やはり高齢者の方は「健康のこと」が最も多く回答がありました。次に、「経済的な理由で困った経験」について、ご質問させていただきました。「電気料金、ガス料金、電話代の未払い等があった」という項目に回答いただいた方が2.8%となっており、こちらもおおむねどの項目も8割以上の方が「なかった」と回答。18ページです。「地域活動等の取組状況」についてご質問させていただいております。興味のあるボランティア活動は、「地域の環境美化、環境保全、自然保護などの活動」、また、「高齢者を支援する活動」などが多く回答。では、「実際に取り組んでいるか」という質問では、「自治会、地区協議会、老人クラブなどの活動」に取り組んでいる方が多い。また、今後取り組みたい事項については、「機会があれば取り組んでもよい」という方が26.8%、「取り組みたいができない」と回答された方も同じ割合でした。

5番で、「地域活動、ボランティア活動への参加しやすい条件」についておたずねしました。どういった条件であれば参加しやすいかということですが、やはり、「時間や期間にあまり縛られない」といったものに多く回答。また、「活動場所が身近なところにある」にも多くの方が回答。

続いて19ページです。「就労」です。1番の就労状況ですが、「仕事をしていない」方が約7割近くいらっしゃいました。非正規でお仕事をされてる方は1割ちょっと、また自営業の方も1割弱いらっしゃいました。「今後の就労の意向」についておたずねしたところ、「仕事をする必要がない・したくない」

という方が5割程度。では、仕事をしたいと回答した方に理由を質問では、「健康に良いから」、また、「生活費をまかなうため」などの回答をいただいております。

続いて20ページです。「健康や医療」についての質問。はじめに、「主観的な健康観」についておたずねしております。「おおむね健康で普通に生活している」、「大変健康である」という回答をいただいた方を合わせて、「健康である」というくりにさせていただくと、67%の方がそのように感じていらっしゃるようです。一方で、「健康に不安がある」と回答されている方が3割ほど。「健康に不安がある」と回答した方に、「日常生活の影響」については、「固いものが食べにくくなった」、「外出することが難しくなった」、「物忘れが多くなった」などの回答をいただいております。③では、「かかり付け医、かかり付けの歯医者、薬局」について質問させていただき、おおむね6割近くの方が、かかり付け医、歯医者さん、薬局などを持っていらっしゃるようです。また、その下で、「調布市の医療をより良くするために必要だと思うこと」をおたずねしたところ、「在宅医療の普及」にチェックが多く入りました。また、「地域の中で完結できる医療体制」という回答もいただいております。

7番で、「運動や介護予防」について質問。①では、「どのような運動を日頃おこなっているか」質問させていただいております。「自宅での体操やストレッチをする」、「30分程度の散歩やウォーキングをする」と回答された方が多くいらっしゃいました。21ページです。「参加を希望される健康作り事業」についておたずねしました。「認知症の予防やケア」について、ご希望が3割ほどございました。また、「骨折予防」、「寝たきり予防」などについては、28%の回答。また、「参加を希望する事業の形式」については、「講演会などの話を聞く形式と、実際に体を動かす実践形式を組み合わせた形式の事業」という回答が最も多く、続いて、「実際に体を動かす事業」というような回答になっております。

8番、「介護者支援」についておたずねしました。「介護経験の有無」について、ご質問させていただいております。「介護の状況」は、「介護していない」方が6割強いらっしゃいました。また、「介護経験がある」と回答いただいた方は3割ほどいらっしゃいました。「介護経験がある」と回答いただいた方について介護者についてお聞きしたところ、おおむね実のご両親などの割合が最も多く出ております。また、「介護者に必要な支援」をおたずねしたところ、「介護者が気軽に休息が取れる機会作り」に回答が最も多く寄せられております。

続いて、9番、「認知症」についてです。「認知症のイメージ」についておたずねしました。多い回答は「認知症になっても、医療介護のサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」で、36.2%でした。続いて22ページです。「認知症になった場合の暮らし」についても、先ほどの質問と同じように、「認知症になっても、医療介護などのサポートを利用しながら今まで暮らしてきた地域の中で生活していきたい」という回答を最も多くいただいております。その下、求める認知症施策についておたずねしました。「認知症の人が利用できる介護施設の充実」を求める回答が5割以上ございました。また、「できるだけ早い段階から、医療介護などのサポートを利用できる仕組みづくり」を希望されている方も多くご回答がありました。

10番です。「災害時の対応」です。「災害時の避難が1人でできるか」を質問。74%の方が、「1人で判断し避難できる」と回答。また、「避難できない」と回答いただいた方が18%ございました。③です。「災害に向けて普段から地域のためにしていること」をおたずねしております。「家庭内での災害への備え」、「水や食料の備蓄や家具の転倒防止等」について6割近い回答。また、「災害時に向けて普段から地域のためにできること」を質問させていただきました。こちらも同じ答えで、「家庭内での災害の備え」、「水や食料などの備蓄」、「家具の転倒防止」などにチェックされた方が6割です。

23ページです。「福祉のまちづくり」について質問。「バリアフリー化の状況」について質問では、「整備されている」と感じていらっしゃるの、やはり「公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエ

スカレーター」、あるいは「車いすやベビーカーの乗降しやすい、超低床バスやリフト付バス」といったものについて回答を多くいただいております。また、「整備されていない」と感じられているものは、「歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凸凹がない道路」ですとか、「補助犬と同伴での入室が配慮されたお店・レストランなど」について多く回答を多くいただいております。

「地域社会に対する考え方」です。②で、「障害者差別解消法の認知度」については、残念ながら、「知らない」と答えた方が9割近く。また、「共生社会の実現の状況の実感」についての質問では、こちらにも、「浸透している」と回答されている方は2割ほどで、むしろ、「浸透していない」と回答されている方が35%。また、「分からない」と答えてらっしゃる方も36.8%という数字となっております。

24 ページです。調布市の高齢者保健福祉施策を質問。②で、今後力を入れるべき高齢者福祉保健サービスについての質問では、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合う地域づくりへの支援」に4割強の方が回答いただいております。また、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」にも回答を多くいただいております。

続いて、障害者の調査、25 ページです。「同居のご家族」について質問、配偶者の方や親御さんと暮らしてらっしゃる方が多いですが、精神障害者の方は「ひとり暮らし」の方が多し。

28 ページの3番、「身体の状況と日常生活」という質問の所で、「健康や医療について困っていること」をお聞きしました。「障害の重度化や病気の進行」を心配されている方が多かったです。知的障害の方は、「生活習慣病の予防」などに多くの回答が寄せられております。日常生活への支援で、支援を受けていない理由についておたずねしていますが、「適切なサービスがあれば利用したいが見つからない」という答えを多くいただいております。30 ページです。「主な介護者」のことについては、障害者の方を主に介護されている方は、身体障害者の方は、やはり配偶者、知的障害者の方は親御さん、精神の方も親御さん、難病の方は「配偶者」という傾向が一番多く見られています。31 ページです。「地域の暮らしの中での不安や課題」では、「健康のこと」、「将来のこと」が、皆さん一番気がかりになっていらっしゃるようです。32 ページです。「困ったときの身近な相談相手」です。「一緒に住んでいる家族・親族」などを、最も頼りにされているようです。精神の方については、「医療機関（医師、看護師、ケースワーカー、訪問介護）の職員」が最も多い回答です。

次に、「就労等の状況」についてです。33 ページの②をご覧ください。「仕事をする上での不満」についての質問では、「収入を伴う仕事をしている」と回答した方に不安についておたずねしました。「収入が少ない」という回答をいただいております。また、「勤務先へ障害、病気のことへの伝達」については、おおむね伝えてらっしゃる方の割合が多いという結果です。34 ページの⑥です。「仕事をするために必要だと思うこと」を質問。「心身の健康状態の維持向上」という回答が最も多く見られました。35 ページ、⑦です。「今後したい仕事」について質問させていただいております。身体障害者の方で65歳以上の方は、あまり仕事のご希望が少ないですが、64歳以下の方については、まだ「正規の仕事をしたい」という希望が多く見られます。また、知的障害の方は、「障害者施設（作業所など）で仕事をする」という回答が多く見られております。精神の方も正規職を希望されている割合が多く見られました。

37 ページです。「災害時の対応」というところで、「災害時の避難の際、避難所に行くまでの間に必要だと思われる支援」について質問。「災害の詳しい状況や避難指示などを知らせてくれること」、「避難所までの案内、誘導や移動の支援」などを多く希望されています。また38 ページの方では、「避難所で必要だと思う支援」については、身体障害者の方は、「段差がない、使いやすいトイレなどのバリアフリー」、「医療や医薬品の確保」などについても回答が多くございました。知的障害の方は、「個室や間仕切り」などのご希望が多く見られます。また、精神、難病の方については、「医療や医薬品の確保」に多くの回答が寄せられております。39 ページです。②障害者差別解消法の認知度について、おたずね

しています。残念ながら障害当事者の方でも、「知らない」という割合が非常に多く回答いただいております。40 ページ「不当な差別的取り扱いを受けた経験」がありますかと、質問をさせていただいております。「ない」という回答多数。また、「共生社会の実現の状況の実感」について質問では、だいたい3割前後の方が、「浸透している」と回答。また、「浸透していない」と感じられているの方が、どちらかという割合が多く見られました。41 ページ、「障害者保健福祉施策の情報の入手経路」については、市の情報を見ていただいていると感じました。42 ページです。「調布市の障害者福祉サービスの充実についての実感」について質問させていただいております。充実については、難病の方も《充実している》と考えられている方が5割を超えております。

最後に、18 歳未満の障害のある方の回答になります。44 ページです。すみません、⑤「居住地域」、「避難場所になっている小学校」という所ですが、データが間違っておりますので訂正をさせていただきます。今、第6地域や、第7地域という表記はございません。「居住地域は」の後を消していただきまして、「上ノ原小学校区 (9.6%)」が最も多く、「飛田給小学校 (8.0%)」、「第一小学校 (7.2%)」、「富士見台小学校 (7.2%)」と続いています。訂正をお願いいたします。

45 ページです。「住まいや居住意向」についてです。「居住の形態」については、「一戸建て」の方が割合が多く見られました。また、「今後も、調布市に住み続けたい」という意向を持っていらっしゃる方が65.6%という数字になっております。

次に、「日常生活」についてです。「日中の過ごし方」は、就学前のお子様は、「子ども発達センター」と回答された方が最も多く、就学されている方については「特別支援学校 (小・中・高等部)」に行かれている方が多くなっております。46 ページです。「普段の生活の中で、保育園、幼稚園、学校以外で、活動に参加する機会・活動を行う機会の有無」について質問させていただいたところ、「機会がある」と答えていただいた方が、かなりの割合ございます。また、「機会がないが、欲しいと思う」内容については、「スポーツ・運動以外の趣味・習いごとなどの活動」、「友人との交流」などのご希望が多くご回答をいただいております。「保護者の方が感じている地域の暮らしの中での不安や課題」についてです。これについては、「余暇活動」(外出、スポーツ、趣味、その他の習いごと、サークル活動など)の機会が少ないと感じられていらっしゃいます。また、「子どもの養育介護のため就労ができない(就労が制限される)」と感じている方の割合も4割いらっしゃいます。

6番で「将来の意向」です。「進学意向」ですが、「高等学校まで」が6割近く、最も多い回答となっております。47 ページ、「就労意向」についてです。「会社やお店などで働く一般就労」が36.8%で数字が高く出ております。「今後の居住形態の意向」については、「グループホーム」という回答が多数です。

7番で「保護者の方の状況」です。はじめに「保護者の健康状況」です。健康については、「良い」と答えられた方が45.6%、また、「良くない」と回答されている方は25.6%です。47 ページの一番下です。「保護者の支援に必要なこと」についておたずねしたところ、「相談・情報提供」という希望が、最も多くご回答をいただいております。

48 ページです。「障害者の保健福祉施策」について、「障害者差別解消法の認知度」ですが、「知らない」と答えた方が68.8%。また、その下、「不当な差別を受けた経験」については、「ある」と答えた方が34.4%、「ない」と答えた方が57.6%となっています。49 ページです。こういったサービスの情報を入手する方法についておたずねしました。やはり、「市報ちょうふ」をご活用されている方が多いという数字が出ております。その下、③で、「i ファイルの認知状況」についてご質問しております。《知っている》と答えた方が66.4%、《知らない》と答えた方が33.6%となっています。また、⑥で「今後力を入れるべき障害者福祉サービス」について質問させていただきました。「成人後の通所施設(作業所)

など、日中の活動場所の整備」のご希望が、最も多い数字となっております。

最後です。50 ページ、8 番です。「調布市の医療をより良くするために必要だと思うこと」について、おたずねしました。「地域の中で完結できる医療体制」に最も多い回答がございました。駆け足での説明でしたが、以上です。

会長：ありがとうございました。概要ということで、速報版で、こういうことが結果としてまず出たということ。前との比較その他いろいろなものは、まだこれからということですが、これからどんな感じでまとめることになるのかをお話いただけますか。

事務局：机上に前回の報告書があります。おおむね全般的に似たような形式になるかと思えます。さて、委員の皆様をお願いします。26 ページを開いていただきますと、図が出ているかと思えます。近所付き合いの状況ということで、こちらを、性別、それから年代別、居住地域、今回は東西南北で居住地域を区分させて集計していただこうと思っております。このように、いろいろな回答の中からクロスをさせて集計をすることで、その質問で答えた方が何人いるのかというのではなく、何かと何かを掛け合わせることで、より状況が見えてくるような、そういった集計の希望を皆さんからもご意見をいただいて、実施していきたいと思っております。今回のこの調査の中でも、報告書の中、19 ページを見ていただくと、過去の調査との変化が見られるような形になっておりますので、次回は、今回のデータ以外の、前回調査との比較などのデータも合わせてお示しできたらと考えております。

会長：この調査のまとめというのは、今、クロスが注文があったらぜひ聞きたいという話ですが、今回の結果からそれをするのか、その次の、前回との比較などがある程度整った段階で、こういうクロスが必要ではないかとお話を伺うか、どちらなのでしょう。

事務局：今回お渡しした資料を元に、皆さんからご意見を頂戴できればと思っております。お配りした資料の後ろに、ご意見をいただく用紙も付けております。大変お忙しい皆さんではありますが、ご意見を頂戴したいと思っております。

会長：はい。では、概要をご説明いただき、そして、今後これをまとめていく上で、委員の方々に、お願いしたいことについてお話もありました。今日はなかなか意見を出すのも難しいと思いますが、確認したいことや、まとめ方などの大きな視点でのご注文があれば、少しお話しいただければと思います。どうぞ。

委員：私は、調布市の自治会連合協議会の安全・事業委員長かつ、柳会という自治会の会長もしており、国領自治勉強会もしているもので、これとすごく関係のある仕事をさせていただいております。今日、これを見て、すごく参考になりました。実は今、自治会に入ろうというキャンペーンをしております。それで、明日も調布市役所の2階のロビーで相談コーナーを朝10時から午後の3時までしている関係上、すごく参考になりました。私は、こういったことも参考にして、もっともっと強烈に今後考えておこなっていききたいなという考えがあります。

会長：ありがとうございました。確かに、自治会を知ってる、加入してるなど、みんなそれぞれ違いましたし。それから、なぜ自治会に入っていないのかという理由も、かなりここに出てきているので、いろいろ参考になるかと思えます。ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。たとえば、クロスのところ、65歳以上と64歳以下となっていて、「65歳以上の一定の年齢区分とクロスしてほしい」という注文が出たら可能ですか。1歳ごとということではないですが、5歳とかであればできますか。

コンサル：年齢は記入で取っていますので、5歳刻みとかにすることはできます。ただ、今考えているのは、65歳以上から74歳と、75歳以上です。

会長：それぐらいは考えているということですね。

コンサル：後期高齢者と前期高齢者を分けるなどの程度のことは考えています。

会長：場合によっては、もう少し考えた方がいいかもしれません。前の調査で、調布の高齢者は、自分たちを高齢者と呼んでもいいというのは、80歳以上となっていたから、これからはもう少し主体になっていただかなければいけないので、後期、前期という考え方だけではなく、その辺のところを少し見ることは必要かもしれません。他に何か確認したいことはございますか。

副会長：少し気になったのは、今ご説明いただいた12ページで、ロジックがよく分からないです。ソーシャルインクルージョンに関する意識についてたずねたというので、《そう思う》ことに関して言えば、確かに障害のある人、ない人だということでバリアを取り除くべきである。虐待を防止するのが重要、地域とのつながりが重要だということで、これはいいと思います。今度、これは逆になるのではないかと少し思ったことは、「あまりそう思わない」、「そう思わない」を合わせた《そう思わない》というのは、要するに、「生活保護を受けている人に対する差別や偏見がある」というのは、《そう思わない》という、「差別や偏見がない」という意味になります。あと、「引きこもりやニートは本人だけじゃなく社会全体の問題だ」というのは、「問題ではない」というように思っている。54%と48%というのは、どのようなことですか。

事務局：7ページになります。生活保護を受けている人に対する差別や偏見があると思っているのは、「とてもそう思う」と、「そう思う」で48.5%です。

会長：それはいいのですが、これは逆に、「差別や偏見がない」って言って、「そう思わない」というように言ったら、差別と偏見があるわけです。「差別や偏見がない」って言って、「いやいや、そうは思いませんよ」って言ったら、「差別と偏見がある」ということです。それなら54%とか48%は、肯定的な回答になると思いますが、これはどのような集計を。ネガティブな回答とネガティブな回答を合わせて、ポジティブな回答にするなら分かりますが、これは……。差別や偏見があれば、「そう思う」ではないのかという意味で、さっきから考えていて、これはどちらのパーセンテージのことを言っているのだろうかと思いました。

事務局：そのところが、いわゆる生活保護を受けている人に対して、偏見や差別がありますかという質問に対して、「そう思わない」ということで、これは反対で、「ない」という意味ではないかという集計結果なのかというご質問だと思いますが、私どもが読ませていただいた限りでは、いわゆる偏見がないと思っている割合が54.3%だと捉えておりました。ただ、先生の方から問題提起されましたので、もう一度、そのロジックを確認したいと思います。

コンサル：すごく分かりにくい文章を書いてしまい、申し訳ないですが、「生活保護を受けている人に対する偏見や差別がある」という考え方に対して、「そう思わない」と答えた人が54.3%いるということです。

会長：そういう意味ですね。

コンサル：「引きこもりやニートは、本人だけでなく社会全体の問題だ」という考え方に対して、「そう思わない」と答えた人が、48.8%です。

会長：ここは、これだけ読んだのでは、よく分からないです。

コンサル：はい。文章の書き方がおかしいので、分かりやすくします。

会長：はい。ありがとうございます。そういう読んですぐ理解できない所を直していただくとしましょう。ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

委員：高齢者のニーズ調査で、調布市の医療をより良くするために必要だと思うことで、やはり、「在宅医療の普及」が一番でした。前回もやはりそうでした。これは、すごく大きな課題で、我々、職能団体として医師会が、しっかりと取り組まなければいけない大きな課題ですが、このニーズ調査の医療の部分をもう少し細かく、いろいろクロス集計して、市民向けの報告ではなくて、医師会内で医者に向けて

の報告を作ればなと思いますが、それは、その旨でリサーチ会社の方にお問い合わせはできるのでしょうか。

会長：ここは、今のことも含めて、データができていますが、そのデータを報告書一般にまとめるだけではなく、たとえば、こういうところをもう少し詳しく分析してほしいとか、そういう個別のニーズにも応えられるのかどうか。あるいは、エリアが東西南北とおっしゃいましたが、うちの地域はどののだというような、今までここでは10カ所エリアで基礎的にしてきましたが、先ほどコーディネーターから西部地区とかいろいろ出っていたので、そのエリアのデータを地域で議論するためにももらえないか、みたいなことになったときに、応えられるのかどうかというのは、全体的にどうでしょう。

事務局：地域については、分からない方も若干いらっしゃいますが、学校区を記載していただいております、データ上は持っているもので、学校区ごとの集計は、4地域で出せます。

会長：それはできるということですね。具体的にはたとえば、どのようなデータが必要になってくるのでしょうか。

委員：たとえば、高齢者の所の問4と問20をかけてということで、独居の認知症の方が出てくると思います。その中に、まだ、詳しく見てなかったですが、独居の認知症の方たちが、どういう生活課題を持っているのかということと、あと、在宅医療についてということについては、こういう形でまとまっても、なかなか医師会を説得するための材料にならないです。だから、医療の部分に特化したデータをまとめて、何かの形で、我々の団体に活用できればありがたいと思います。具体的なところは、まだ読み込んでいないです。

会長：要するに、今回やった調査を、市民向けにできるだけ意味のあるようにするために、皆さんからいろいろな意見をもらって作っていく、これが一つです。それから、もう一つは、そのデータを個別分野で、ここに出てきたような課題を解決するために、さらに突っ込んで使うことができるかという意味ですね。

会長：全体の報告を深める意味で、委員の視点から、こういうクロスをしたら意味があるのではないかというのは、なるべく出しておいていただいて、さらにそれを詳しくということは、どうするかは検討していただくということで、他にいかがでしょうか。

委員：このニーズ調査の、各いろいろな、何歳以上とか、障害があるかないかということを出ていますが、その一番最後の所、ご意見ご要望を見ましたら、「何でもご自由にご記入ください」という所がありますが、これについては記入がたくさんあったのかということと、それを、どのような形でまとめているのかをお聞きしたいです。

事務局：申し訳ありません。次回までに、それを資料としてお出ししたいと思っております。前回の調査票でも、いただいたご意見をまとめた欄がございまして。自由記述に書いていただいたご意見を報告書にも全部載せますので、次回の会議までには、こういったご意見があったという表にして、お出ししたいと思っております。

副会長：一つだけいいですか。先ほど年齢のことも出ていますが、性別と年齢層で、三重集計はできますか。何を言っているかということ、年齢の高い男、女、年齢の低い男、女、ぐらゐの感じで。クロス集計って2つでやりますが、もう1つ入れて3つでやるという形です。それで特徴が出るかと思えます。なぜかということ、2つだけでクロス集計をしていると、その限りにおいては男と女はどうかとか、年齢の高い層と低い層はどうかということしか分かりません。だけど、三重クロスにすると、「年齢の高い男はどうか」とか、「年齢の低い女性はどうか」と、そこまで分かってくるので、それができるかどうかをお聞きしたいです。

コンサル：前回の26ページのような、性・年代別みたいなものは可能です。

副会長：その方が、ある種の特徴が分かりやすくなるということは言えると思います。ただ、これはあま

りにも細かいので、10代、20代というので少しくくってもいいかなと思います。そうすると、少し、若干ある種の特徴が分かる気がします。

会長：ほかにはいかがですか。よろしいですか。では、その宿題というのは、いつまでにどうするのですか。

事務局：記入用紙の上に記載しておりますが、年明けの1月6日までということで、申し訳ございません。

会長：宿題で、酔いが覚めても困るので、気が付かれたこと、あるいは、これとこれをクロスしたら、こういうことが分かるのではないかというご注文があれば、ぜひ出していただきたいということです。次回、もう少し整理されたものが出た段階でも付け加えることはできると思いますが、今回見ていただいて、少なくとも、これとこれはクロスした方がいいのではないかと、ご意見いただければありがたいです。では、今日は突っ込んだ議論はできませんので、そういうことにしたいと思います。次に、もう一つ、住民懇談会の中間報告ということでお願いしたいと思います。

事務局：最後に一つだけ、今、クロスの話が出ましたが、年代、性別、地域など特に必須で基本的なものについては必ずできます。前回のものをお手元で見ていただくと参考になるとと思いますが、それ以外で何か新たに付け加えることがあれば、ご意見をいただきたいと思います。

3 住民懇談会報告について

事務局：住民懇談会です。2ページ目に開催の日時等の一覧表がありますが、皆様のお手元の資料については11月分の内容までしか記載されておりません。今、私の手元の方に最終結果がありまして、最終的に8回おこなった合計の参加者数は112人になりました。一番下の表だけ見ますと、男性が51人、女性が53人、社協の方が8人で、合計が112人となっております。委員の皆様、ほんとお忙しい中ご参加いただきまして、ありがとうございます。内容は、資料を読んでいただくということで省かせていただきます。

もう1点、クリップ留めの資料をお配りさせていただいております。ミニアンケートの実施結果と頭書きさせていただいております。社会福祉協議会では、小地域交流事業という事業を地域住民の方と協力して実施されておりまして、秋に実施されました会場にそこにお邪魔をしました。もちろん、実行委員会の皆さんに許可はいただいて、2枚目のアンケート用紙を持って、福祉総務課の職員が一览表の9カ所に行ってまいりました。598人の方にアンケートにご協力をいただき、その単純集計がこの明細の用紙となっております。ここで、懇談会に参加された委員の皆様から、ご意見感想をいただけたら、うれしいです。

委員：私は2回出させてもらった率直な意見として、「こんなに少ないのか」という感じです。ほとんど行政の方と関係者とで、地域の人たちがものすごく少ないことに少しびっくりしました。これは、きちんと原因を十分検討して、次回の対策につなげていかないといけないと思います。やはり地域の住民が100人近く、どっと集まるぐらいのものをしないと意味がないのではないかなと思います。少し失礼な言い方で申し訳ないですが、今回、各地域ではなく、福祉センターという非常に分かりやすい場所で行ったという新しい試みでしたが、どうもそれが功を奏しなかったという感想です。

副会長：私は最終回のところに行きましたが、1テーブルしかできませんでしたので、「確かに少ないな」と思いました。確かに関係者などもいましたが、いろいろ報告書を見せていただくとそれなりにいろいろなご意見が出てきていました。深大寺の所で、確か北部ですが、それなりの意見が出てきたので、「それはそれでいいのかな」と思っています。それから、少し誤解を受ける言い方かもしれませんが、「まあ、こんなものかな」というのが正直なところだと思います。申し訳ないですが、私は、地域福祉計画などを立てるときに、80万人ぐらいいる区で住民懇談会に出たことがあります。大体、こんなものだったとい

う記憶があります。こちらは4分の1のサイズですから、それで、これくらい来てればいい方かなと思います。やはり、周りの区とか見ても、こういうことをしても、大体こんなものです。だから、100人、200人来て、皆で20も30もテーブルができて、やりますというような雰囲気には、今はやはり、無理ではないかと思えます。できないのだと思えます。それほど、やはり、関心はないです。だから、それが問題だと言えば問題ですが、こんなものかなというような感じです。すみません、こういうこと言うと、事務局員から後で「そんなこと言わないでください」って怒られそうですが、そのわりには盛り上がっていたので、良かったなと思っています。

会長：中身を見ると、確かにいろんな意見がよく整理されて出てきているなと思えました。結構出てきている地域の話の話を聞くと、たとえば実行委員みたいな人が全部、個別訪問をしているようです。もし人に、かなり来てもらおうということであれば、それぐらいしないといけないでしょう。なかなか、文書で呼びかけとかでは、もう難しい時代に入っているのではないかなと思うので、そこまでやるかどうかを考えて、次は考えていく必要があるのかもしれないですね。

委員：やはり年に1回というところに問題があるのかもしれないです。すみません。時間が迫っていますが、少し参考までにお話します。私は今、各地域包括支援センター経由で、毎月、在宅医療についての講習会をしています。最初は、確かに参加が少し少なかったですが、今は20人から30人ぐらい、その本当に狭い地域の人たちが毎回集まります。だから、まだまだ、やり方次第で、決してまちづくりについて興味ないわけではないと思います。

会長：今おっしゃったことはすごく大事なことではないかと思えます。こういうときに、何年かに1回、住民座談会をすると、ぴんと来ないけれど、時々そういう会があれば、みんながこういう問題について、「じゃあどうしようか」という話がだんだん出てくるようになると思います。あるいは、その地域で、先ほどもコーディネーターが、「こんな活動をとか、こんな内容を今、みんなが関心持って動いているんだ」という話になると、だんだん関係者が増えてくるという可能性はあると思います。ですので、次の段階に地域福祉の活動を広げる上では大事なご指摘だと思います。ありがとうございます。

副会長：それで言うと、「こんなものかな」って言って悪いですが、やはり参加する人はメリットがないと来ないかなと思えます。だから、何かあったときは、和田先生の講演会ではないですが、何かそういうものがあって、「何かすごくいいお話を聞いたな」というようになり、「では、その後、皆さん少し集まってやりますか」となるといいですね。要するに、利害関係で動いているみたいで嫌ですが、住民の人も利益がないと、「ただ集まってやってください」と言っても来ないです。だから、何か企画としては、そういうのはどうですか。

会長：今回の調査の結果からも、たとえば、在宅医療みたいな話や認知症の話などいろいろ出ているではないですか。そういうものについてのミニ講演会や、あるいは、「具体的な、こういうことをやると、だいぶ効果があるよ」というように、「ふわあつとした話ではないようなことをやります」と言えば、「そういうことだったら出てくる」というかもしれないです。そして、その人たちに、そこでワークを少ししてもらおうとか、やり方は確かに工夫ができると思います。住民懇談会を、どう、今後意味のある内容にするか。それから、できるだけいろんな人に参加してもらえるかということについて、少し知恵を出して考えていこうということですね。ありがとうございます。

委員：今日のまとめではないですが、最初の、地域福祉コーディネーターの活動報告の中で、フードバンクの立ち上げの話の話がありまして、私は非常に、その話がおもしろいなと思っておりました。それは、私がフードバンク団体と関わりがあるということだけではなくて、今、フードバンク団体は、かなり全国で組織化が進んでいますが、都道府県レベルのものが多いです。その調布版を立ち上げようとしていらっしゃるのだとしたら、かなり、それだけでも、なかなか全国でもない取組なんだろうなと思いま

した。それを、地域住民の方が発信されて、それを地域福祉コーディネーターに相談したというのが、非常におもしろいなと思って聞いておりました。フードバンクと一口に言いましても、元々のフードバンクというのは、食品ロスの問題を解消するために、市民であるとか企業とか食品の寄付を受け付けて、それを児童養護施設とか、そういった組織団体に提供するというような活動が主でしたが、最近それとは少し異なる、従来の枠組みには収まらないようなフードバンク活動も見られます。それは、個人宅に食料を宅配するというので、組織や団体ではなくて、生活困窮している各世帯に直接支援をするという活動をしています。そういった活動をしているところを見ますと、かなり個別支援の観点からも、なかなか、今までにはできなかったことができています。様々な援助の展開が、その先に広がっていく可能性を有していると思います。食事、食料の提供を受け付けるということで、やはり、ほかのサービスを受け入れることに関しては抵抗がある方も、食品の提供ということで、わりとスッと提供を受け入れることができるということです。さらに、食品以外のことまで、フードバンク団体が、いろんな課題に気付いて支援をするときに、関係性ができているので支援がしやすいです。たとえば、「ほかの市役所とか病院は、今まで嫌な思いをしたから、あんまり関わりたくないが、フードバンク団体とだったら、相談聞いてもらってもいいし、何だったら支援受け入れてもいいよ」というような方も、実際多くいらっしゃいました。そういうことを考えますと、今、フードバンク団体を、どういう事業展開していくかというのは、構想段階ではあると思いますが、その際に、せっかく地域福祉コーディネーターが相談に乗っていらっしゃるということだったので、単なる、このフードバンク団体を立ち上げる、地域支援の例として今日は挙げていただきましたが、実は、そのフードバンクを立ち上げるということは、その先の個別支援にもつながる可能性があるということです。こういう視点は、地域支援と個別支援を両方射程に入れている地域福祉コーディネーターだからこそ提案できる視点でもあると思うので、可能であれば、そういう個別支援に展開していく可能性というのも、今後模索していただけると、また調布の地域福祉実践は豊かになっていくのかなと思いました。以上です。

会長：ありがとうございました。今、厚生労働省で、生活困窮者支援の法改正に向けて、文献整理の委員会をしていますが、2～3日前に、その委員会で、私がおもしろいなと思ったことがありました。それは、こども食堂とか学習支援で、その学習支援をして、公立の高校に進学して、そして支援を続けて、やめないで卒業した家庭、その生活保護からの離脱率が、すごく高いです。これは、あまり、今までこんなデータなかったし、そういう活動が持っている効果、非常に広い効果であるということです。だから、そのお母さんやお父さんも、少し変わってくるという。子どもがそういうふう学習をしっかりとして高校を出てというような、そこから大学に行く人もいるでしょうが、就職して、しっかりと働くようになってくるということが、すごく意味を持っている。だから、今のフードバンクのような活動も含めて、こういう活動を、地域でしっかりとしていくということは、非常に深い意味を持っているのではないかなと、つくづく思いました。今回、地域福祉計画を作っていくときには、そういう視点も必要があるので、ただしているというのではなく、「それをしっかりとしていると、どんな意味を持っているのか」とか、「効果が上がるのか」ということを明らかにできるようになるといいなというふうに思っています。

4 その他

事務局：次回が第5回の推進会議が来年年明けの1月31日水曜日18時30分からこの場所で行います。

よろしく願い致します。本日は長時間に渡りありがとうございました。

－閉 会－